広報下之郷

20号
1998. 4

発行　下之郷区　　発行責任者　安澤　邦彦　　編集　下之郷郷づくり広報部会

自然を愛し
人を愛する

豊かな心を
育てよう

新体制でより良い郷づくりを！

就任ご挨拶

区長　安澤　邦彦

新緑の候、皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

今日の社会情勢は、先行き不透明で混迷をきたしておりますが、当集落におきましては、郷づくり、農村モデル事業、下水道事業、等々により住環境の整備が着実に進められてまいりました。本年は不肖私ごときが伝統と歴史のある下之郷の大役を仰せつかることになり、その責任の重さをいまさら乍ら痛感いたしております。誠に微力で至りませんが、精一杯努めてまいる所存です。

高齢化と少子化が益々進む二十一世紀を目の前にして、より住みよく、心のふれあいのある美しい郷、若い人にも愛される郷の明日に向かって、老若男女の区別なく、共に考え、みんなが力を合わせて歩んでゆければと思っております。

どうか区民皆様のより一層の温かいご支援、ご協力をいただきますよう、心よりお願い申しあげます。

農業組合長　松宮　清太郎

このたび、平成十年一月十五日四役選挙で農業組合長を受けることになり、重責の重荷を痛感しておる次第です。何分、若輩で未熟者ですが、受けました限りは一生懸命努力致す覚悟でございます。組合員の皆様にはご迷惑をお掛けするかと存じますが、二十一世紀に向けて農業行政の改革を進めるとともに、集落の農業経営の推進を図り、前向きの考えで進める所存でございますので、何卒、皆様のご支援ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申しあげます。

平成十年度区役員一覧

区長	安澤　邦彦
代理者	阪東　祥久
農業組合長	松宮　清太郎
副〃	川並　康廣
分館長	上野　芳樹
区評議員	辻　啓一
	藤堂與三郎
	古川　竹利
	阪東佐智男
	二階堂昭三
	上野　信男
	辻　榮一
	古川　耕資
	上野　清蔵
	川並　稔男
農業組合評議員	辻　康平
	上野　信男
	辻　榮一
	辻　清恵
	二階堂昭三
	松宮清太郎
	川並　弘隆
	古川　浩之
	上野　清蔵
	辻　啓一
郷づくり委員長	阪東　祥久
広報部長	二階堂昭三
木造緑化推進部長	上野　清蔵
河川景観推進部長	阪東佐智男
環境美化推進部長	上野　信男
イベント企画推進部長	古川　竹利
花卉育成推進部長	辻　啓一
歴史文化掘り起こし部長	川並　稔男

自警団団長	柴崎　昌敬
消防団代表	藤居　吉也
交通安全会長	阪東佐智男
同和教育推進協議会会長	阪東　祥久
青少年育成指導員	西堀　与一
町体育推進委員	上野　清治
	古川　洋
健康推進委員	神辺　功
	古川　幸子
	川並　一枝
	阪東　幸子
	上野　久子
老人会会長	古川　吉男
エルダー婦人会支部長	阪東　文子
婦人会会長	辻　志のぶ
幼ＰＴＡ支部長	辻　啓司
小ＰＴＡ支部長	上野　清治
中ＰＴＡ支部長	安澤　善巳
草の根文庫推進委員	川並　智子
分館協力員	安澤　敏子
	古川　武子
クラブ会長	藤居　和子

字内行事予定表

5月　９日	火元検査
１２日	日赤奉仕団新旧役員会
１７日	桂城神社御田植祭
２５日	日赤奉仕団役員会
下旬	農業組合班長会
〃	農免・公園除草作業
6月　７日	区民球技大会
１３日	火元検査
中旬	消火栓防火水槽点検
	交通安全ペンキ塗り
２８日	公園除草作業
	日赤奉仕団
7月１１日	火元検査
１２日	桂城神社納涼祭
上旬	農業組合班長会
〃	稲作現地研究会
〃	字別懇談会
	中学校ＰＴＡ
下旬	農免・公園除草作業
〃	南池清掃作業

各組役員一覧

組	組長	農業班長	体育協力員
１組	辻　啓一	安澤　道夫	上野　正美
２組	西堀　康	川並　久男	阪東　進
３組	西堀　増一	西堀　重員	西堀　重員
４組	柴崎与志郎	柴崎与志郎	辻　敏一
５組	藤堂與三郎	西堀　良三	阪東　力
６組	辻　孫太郎	安澤　貞次	松宮　太一
７組	安澤　邦彦	阪東又重郎	古川九二男
８組	阪東　陽	古川　竹利	辻　利郎
９組	阪東　静雄	阪東　静雄	古川　洋
10組	上野　修	阪東松太郎	若松　嘉一
11組	川並　康廣	松宮　俊雄	井戸　勉
12組	二階堂正雄	阪東　正隆	辻　重博
13組	阪東　清治	二階堂義一	時永　清
14組	二階堂昭三	藤居　好美	松宮　等
15組	高井　健一	松宮　清吾	松宮　清
16組	原田　幸夫	寺居　勝	西堀　幹男
17組	藤居喜三郎	阪東　芳和	田中　利夫
18組	上野　清	上野　安徳	上野　清

郷づくり事業あれこれ

二階堂宝蓮院址石碑建つ

三月十四日、下之郷郷づくり歴史文化掘り起こし部会員さんと役員さん及び関ヶ原石材ＫＫの協力により、桂城神社東の石原溝の一角に高さ約二メートルの石碑が建立されました。

下之郷の歴史を探求するのに最適のものだと思います。なお、その横には由緒碑も建立されています。

三月十五日午前八時より、字内水路清掃作業の前に悪天候ではありましたが、川並稔男部会長より経過も含めての故事が説明されました。

簡易浄化装置　増設

河川景観部会では、一昨年度に続き、簡易浄化装置の製作に取り組まれました。装置作りに必要な孟宗竹を日野町の方まで伐採に行き、一月下旬から組み立て作業一ヶ月余りをかけて、ようやく完成しました。できあがった浄化装置は金堂川などに設置され、水質浄化に威力を発揮しています。

道標も完成

環境美化部会の取り組みで、農免道路にまた一つ道標ができました。運転している車からもよく見えるようにと高さも工夫されています。

金堂川の河川改修

身近な水辺環境再生事業として、金堂川の河川改修工事が一昨年から始められ、昨年度、残り半分の河川が改修され、工事が完了しました。桂城神社の橋は欄干風に作られ、水車も設置され、すっかり見違えるような景観になりました。

ふるさと大発見

新しい名所に！「二階堂宝蓮院址」の石碑建立！

昔話に「二階堂佛」というのがあります。昔々、下之郷に大きなお寺があり、大そう立派な阿弥陀様が祠ってありました。戦国の世になって、織田信長が下之郷城を攻め落としたとき、この阿弥陀様を見つけて安土城下へ持って帰ってしまいました。ところがこの阿弥陀様はよほど下之郷が恋しかったのでしょう。どうしても東〈つまり下之郷の方角〉へ向きを変えられてしまいます。さすがの信長も、困って東向きにお堂を建て、この佛様を安置したのです。だから今でも安土浄厳院の本尊は東を向いておいでなのです。

昭和四十二年に浄厳院〈この寺は安土宗論＝信長が浄土宗と日蓮宗とを論争させ、浄土宗に勝たせた＝で有名です。〉の解体修理が滋賀県教委の手で行われましたが、その時、本尊〈丈六の阿弥陀如来像〉の台座柱に「此尊像者雖為二階堂本尊従信長殿様被下候条天正六年戊寅歳浄厳院願□□」との墨書銘が発見されたのです。〈天正六年は一五七八年です〉

つまり古老の伝承昔話は、歴史の事実であったことが証明されたのです。

ついでに申しますと、昨年浄厳院の楼門が解体修理されたのですが、この門は、浄厳院の前身である佐々木慈恩寺の唯一の遺構であり、甲良宗広（日光東照宮造替で有名）の祖父光広の作であることも判明しました。

さて、二階堂宝蓮院址の碑文には、次のように書かせていただきました。

「此付近二階堂宝蓮院址　奈良西大寺本坊二聖院の末寺帳〈明徳二年＝〈一三九一〉九月〉によると、西大寺の近江八末寺の筆頭が二階堂宝蓮院、次が佐々木慈恩寺とある。宝蓮院は、二階堂氏の菩提寺、慈恩寺は、佐々木氏のそれであったが、何れも信長により廃された。しかし、信長は、安土城築城に伴い慈恩寺跡に、浄厳院を建て、宝蓮院の丈六の阿弥陀如来〈いわゆる二階堂仏〉をもって本尊とした。　二階堂氏は、藤原南家の流れを及む豪族で、貞藤〈道薀〉は、鎌倉幕府最後の政所執事であり、後醍醐天皇の誓書の繙読を止めるよう北条高時を諫めた幕府随一の賢将といわれ、建武の親政にも活躍したが讒言により、ここ下之郷屋敷に蟄居、やがて、京都六条河原の露と消えた〈建武元年＝〈一三三四〉〉武将である。

若干補足しますと、天下を取った信長は、安土山に五層七重の豪壮華麗な天主を持った巨大な城を築き、豊浦、常楽寺の二つの港をひらき、城下町はいわゆる楽市楽座として、商業活動を促進し、一方近江の国司佐々木氏の菩提寺であった慈恩寺を廃して、浄厳院を建て、金勝〈現栗東町〉から住職を呼び寄せ、二階堂の丈六の阿弥陀如来をもって本尊とし、織田家の菩提寺とするべく計画したのでした。信長は志なかばで仆れ、城は石垣を残すのみとなり、安土の町は、もとの静かな佇まいにもどってしまいました。

一方、奈良西大寺の近江に筆頭の末寺であったと記録にある下之郷二階堂宝蓮院とは、どのような寺であったのでしょうか。もちろん、豪族であった二階堂氏の菩提寺であり、立派な寺であったことは想像に難くありませんが、その場所も規模も全く特定できません。しかし、これは、近き将来必ずや解明されるものと信じております。

〈川並稔男記〉

懐かしの風景

つい最近まで秋の田んぼに必ずあった「はさ」。昔は、こうしてはさにかけて乾かし様々に活用されたわらでしたが、今ではコンバインで切り刻んでしまい、はさがけしてあるわらを見ることもほとんどなくなりました。

読者の広場

短歌コーナー

年頭に神楽の笛のきこえくる豊年という明るさもちて　上野　たつの
置屋根に鳩のくぐもり鳴くを聞くわれの病をなげきし亡母（はは）よ　上野　二沙繪
一周忌の夫の遺影向かい合い小言言いたくとも最早届かず　上野　文子
芦原の宿より眺むる冬の空行く鶴の一羽弓矢の如し　上野　りえ
叱られてすねたる孫のなみだぐみ走り去る肩波打ちており　川並　克子
毎年の楽しみに見る長浜の盆梅展の香りほのぼの　川並　千町
三世代揃いて講の宿元をつとめて今年も家内安泰ならん　川並　みよ子
米寿なる祝いを受けるおじいさん嫁子にうれし涙流しぬ　古川　ふさ
寒中の夜霧の中を歩み行けば一灯のあかり幻想の如し　堀川　文江
母姉に応援されし清水選手小柄な胸に金メダル輝く　藤居　和子

C

■子どもにもわかりやすくかいてあってよみやすいです。「下之郷の人口のうつりかわり」などのせればおもしろいな。（宿谷紗華さん）

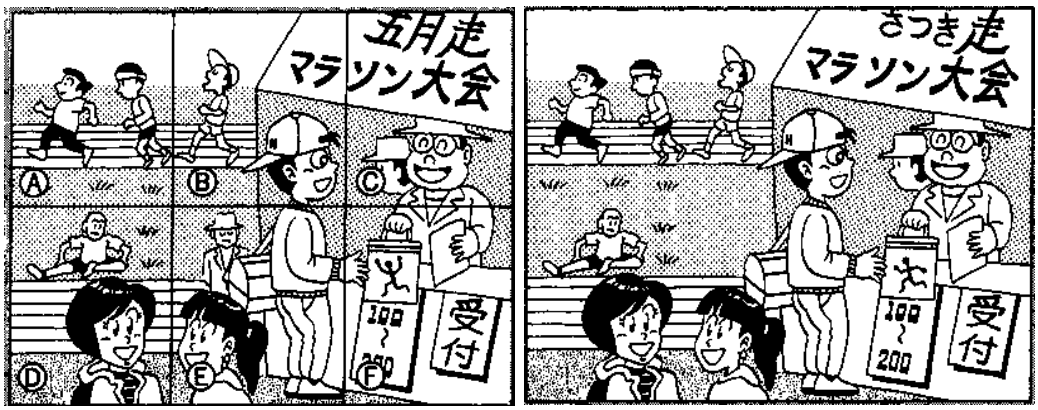
■長寿祭や一年生は出ていますが、出生はどうでしょうか？（阪東佳彦さん）

■下之郷農業経営の成り行きも紹介してほしい。下水道の進捗状況も記載していただきたい。（松宮清太郎さん）

■またおもしろいクイズを作ってください。（上野恵利加さん）

■前号の表紙の若いお二人何をお祈りしているのでしょうかね。カメラマンもなかなかの腕前ですね。（藤居佳次郎さん）

まちがいさがし



上の絵は右と左で三カ所違うところがあります。見つけて下さい。答を集会所までお寄せ下さい。正解者の中から抽選で粗品を差し上げます。

編集後記

広報発刊四年目に入りました。マンネリに陥らないよう、区民の皆様の声を生かして、一層愛される広報作りに励みたいと思います。ニュース・情報の提供について、今後ともご協力をお願いします。